

希少植物等保全対策検討委員会（第6回）議事概要

日 時	令和7年1月21日（火） 13:30～15:30
場 所	津野町役場本庁舎（高岡郡津野町力石2870番地）
出席者	<p>石川慎吾委員長（高知大学名誉教授）</p> <p>重山陽一郎委員（高知工科大学 システム工学群教授）【WEB参加】</p> <p>中澤純治委員（高知大学総合科学系地域協同教育学部門准教授）</p> <p>前田綾子委員（公益財団法人高知県牧野記念財団主任研究員）【WEB参加】</p> <p>鴻上泰委員（土佐植物研究会会長）</p> <p>谷脇幸秀委員（津野町商工会会長）</p> <p>馬場誠委員（一般財団法人天狗荘（カルストテラス館長））</p> <p>オブザーバー 大崎陽子津野町観光推進課長</p>

【委員の発言】

委員	<p>議事（1）資料1、資料1-1～1-3 アンケート調査結果報告について説明</p> <p>今年度実施したアンケートの最終報告をさせていただく。</p> <p>○アンケート調査の概要について</p> <p>昨年の委員会の議論を受けてアンケートを作成し、4月27日から11月4日まで調査を実施した。調査方法は、調査員による質問調査とマイクロソフトフォームズを利用したインターネット調査を併用した。調査期間のうち、調査員による現地での質問調査を5回行った。対象は天狗高原への来訪者で、昨年の11月29日時点で939サンプル集まった。概ね傾向は分かるのでこのサンプル数で分析を行った。</p> <p>○アンケート調査の主な内容について</p> <p>アンケート調査票は、資料1-3のとおり。</p> <p>主なポイントの1つは、天狗高原に来られた方に、天狗高原の全体の総合的な満足度を聞き、その評価の理由から明らかとなることがあるか判断することが目的。</p> <p>2つ目は舗装された①バリアフリー道、②探勝路（見晴らし台から東西に分けた）東側、③西側、④舗装していない従来の遊歩道（その他）、この4つを歩いた方に、満足度を聞く調査をした。ねらいは、4つの道の満足度に違いが出るかを見る。昨年度に委員長がまとめてくださった「天狗高原における生物多様性の保全と利用に関する課題等」（第4回資料2）の、「歩きやすさ」、「景観」、「自然とのふれあい」、「案内などのサイン」の4つの観点から歩いた道の満足度を聞き、道によって満足度に違いがないかを確認する設計にした。</p> <p>○アンケート調査の主な結果について</p>
----	---

・天狗高原における総合的な満足度

まずは、アンケートの目的である天狗高原の総合的な満足度を聞いた。結果として、積極的に天狗高原を支持すると評価している方の割合から、あまり評価しない方の割合を引いた度数のNPSスコアが、「35.9」で非常に高い。この結果から、トータルとして、来訪者に非常に支持されていることが分かる。

詳細を説明する。資料1－3調査票裏面の設問7「総合的に見て、現在の天狗高原を家族、友人、知り合いに勧める可能性はどれくらいありますか。当てはまる数字に○を1つつけてください。」により、総合的な満足度を調査した。回答は、「可能性は全くない」の0から「極めて可能性がある」の10までの数字に○し、その理由を記載していただく。

人はすごくいいと評価したものを友人・知人に勧めたくなる傾向があることから、この方法はマーケティングの分野でよく使われる。「0から10」の11段階の指標で、9、10はとても他人に勧めたいポジティブな評価。一方で、6～0まではネガティブな評価となる。7、8は中立。このアンケートで9、10の「極めてよい」と評価した方は939人中475人で、50.6%の半数以上を占めた。0から6のネガティブな評価は、一般的には低く14.7%となった。評価している50.6%からネガティブな14.7%を引いた35.9%の方が支持していることとなる。

次にどのような理由で評価したのか、特に0から6のネガティブな評価の理由を見るのが非常に重要。資料1－1「NPS理由」に評価別の理由を抜き出している。理由は重複するものを省いて全て記載した。

評価0から6のネガティブな評価の理由の中に、例えば、舗装により自然との関わりや景観が害されているといった意見がたくさんあれば、事業として問題があるのではないかということになる。実際の評価を見てみる。特徴的な部分には色付けした。

【評価0から6の理由】

○評価2「笹の侵入は、しかたないのですが、からないと、せっかくのせっかくの、石灰石うもれていますから！」

⇒ この意見は、支持しているが手入れや整備をもう少ししっかりしないとイケないのではという意見。

○評価5「毎年ハイキングに来ていますが、だんだん環境が悪くなっている。」

⇒ 舗装面か、一般的な環境か分からないが、毎年来る方の中には、自然環境が悪くなっていると感じている方がいる。

○評価5「長年天狗高原には年に何度か来ています。草原を歩いたり、景色を見るのが好きです。広いアスファルトの道ができ、少しさみしい気持ちになりました。以前の人の手が入りすぎてない感じにいやされていたので。」

⇒ アスファルトについて言及している。他にも数名いた。

○評価6「自然景観、自然との触れ合いは勧めたいが、自然景観を損なう恐れのある整備は避けるべきだと思う。一方で、従来からの遊歩道は歩きにくくいままであり、足元の悪さを解消するための何らかの対策は必要だと思う。」

⇒ 景観を損なうことなく整備をしてほしい、また従来からの遊歩道はそのままではなく、少し何か改善が必要という意見。

○評価6「散策路の草が成長しすぎており、酪農地帯と比べて、石灰岩が見えず、独特の景観に乏しい。また、散策路の舗装はバリアフリーとしても良いと思うが、所々に設置されている木の柵は絶対に不要。撤去すべきだと思う」

⇒ 景観の観点から木の柵に言及されている。

繰り返しになるが、多くの方が非常に良いと評価していることが前提ということと、今回整備された舗装に関することよりも、天狗高原をもっともっと良くするためには、全体的に考えなければならないことがあるのではないかとの提起になっていると思う。

【評価9、10の理由】

「景観が抜群でかつ歩きやすく誰でも見晴台までいける」

「90歳のおばあちゃんが歩いて登れて感動していました。」

⇒ この委員会が立ち上がったときに、環境も経済も福祉もそれぞれ三方よしにどう落とし込むかという話があった。各利用者の置かれている状況は違うが、基本的には現在の状況に非常に大きい満足度を示している結果となっている。

以上、全体的に見ると、非常に高い満足度であるが、評価の理由の中には、一部舗装に関するコメントがあった。また、草刈りやカルストテラスとの連続性、案内が不十分など、全体の整備に関する意見が非常に多かった。

・各探勝路と4つの視点から見た満足度

次に、4つの探勝路（バリアフリー道、探勝路(西)、探勝路(東)、その他）における来訪者の4つの観点「歩きやすさ」、「景観」、「自然とのふれあい」、「案内などのサイン」について検証したが、いずれも満足度が非常に高い結果となった。ただし、非常に高い満足度ではあるが、来訪頻度別で見た

場合、5回以上来訪した方の中にやや不満を持つ方がいる。しかし不満を持つ方の数が非常に少ないため、1人2人変わることによって結果も変わることから、結論付けることはできない。全体として良好な結果であるが、天狗高原に深くコミットされた方の中に不満を持つ方がいる可能性があり、ここをケアする必要があると考えている。

詳細を説明する。個別の探勝路について、地図上で示した①バリアフリー道、②探勝路(西)、③探勝路(東)、④その他(従来の遊歩道)の4つに分けて満足度を聞いた。満足度は、「歩きやすさ」、「景観」、「自然とのふれあい」、「案内などのサイン」の4つの観点を、「非常に満足している」から「全く満足していない」の5段階で聞いている。特に「景観」や「自然とのふれあい」は、今回の整備に満足していない状況が起こっているかをチェックするため、全ての道で満足度を聞き、満足度の分布を分析した。

資料1-2の単純集計をみると、各道を歩いた方の数は、バリアフリー道は回答者939人中604人、この604人の方に「歩きやすさ」、「景観」、「自然とのふれあい」、「案内などのサイン」の満足度を聞いた。そのほかの道も、各探勝路を歩いた方は、探勝路(東)は575/939人、探勝路(西)は368/939人、その他(従来の遊歩道)は438/939人となっており、同様に4つの視点で満足度を聞いている。

まず、単純な満足度は、道により多少上下するが、ほぼすべての道で「非常に満足している」、「やや満足している」の回答が約9割となっている。細かい分析をするまでもなく、多くの方が満足している状況が分かった。

次に、不満な点がないか分析すると、「歩きやすさ」は、舗装したバリアフリー道、探勝路(東)、探勝路(西)のグループと、その他(従来の遊歩道)で傾向が異なる。舗装した3つの道は非常に歩きやすいという結果が出たが、舗装していない従来の遊歩道(その他)はやや歩きにくい(満足していない)という方が多い。さほど大きな違いではないが、グループで分かれることが明らかとなった。この他「景観」、「自然とのふれあい」、「案内などのサイン」についても同様に分析した。

「景観」は、4つの道は同じような比率であり、道によって満足度に違いはない結果となっている。

次に、「自然とのふれあい」も同じ傾向で、全体的に非常に満足度が高い。あまり満足していない人も少しいるが、道別の比率に違いはなく基本的に同じ。

「案内などのサイン」も全体的に非常に満足度が高いが、「その他(従来の遊歩道)」で少し案内が不十分であると出ている。ただし、統計的には誤差の中に入るくらいのレベルである。

ここまで、道による違いがあるか見てきた。「歩きやすさ」は違いが出ているが、「景観」、「自然とのふれあい」、「案内などのサイン」に関しては、統計的に有意な差は出ておらず、非常に満足度の高い結果となっている。

続いて、来訪頻度との関係を見た。来訪頻度の多寡により何か違いが出るかである。「景観」、「自然とのふれあい」に関し、来訪頻度5回以上は「あまり満足していない」、「全く満足していない」が少し多い傾向にある。しかし、来訪頻度5回以上は初めての方や2～4回に比べるとサンプル数が少なく、604サンプルのうち98名。統計的に差は出ているが、サンプル的には弱い可能性がある。ただし、「景観」、「自然とのふれあい」に関して来訪頻度が5回以上の方が、少し満足していない状況があることは心にとめておく必要があると思う。様々な分析をしたが、統計的に大きな差が出たのは、来訪頻度5回以上の方の「不満足である」との回答が少し多かった点である。

・まとめ

全体的な評価は、NPSスコアが35.9と抜群に高い評価（指標）が出た。改めて、天狗高原が県内外の人にとって、非常に高い価値を持つ自然資源であることは間違いない。今回、「歩きやすさ」、「景観」、「自然とのふれあい」、「案内などのサイン」の視点で見てきたが、4つの探勝路別に差が出るかと言えば、それほど大きな差は出ていない。特に統計的に有意になる差はなかった。全て満足度が高い形で共通している。ただ一点注意が必要なのは、初めての方や2～4回の方と違って、5回以上来ている方々の「満足していない」との回答が若干高い傾向にあるので、天狗高原の現状に不満足を感じさせる何かがあることは間違いない。全体的に評価は高いながらも、より良くもっと天狗高原の価値を高めるためには、こういった方々がどこに不満を感じているのか、特に整備に関しては、「その他の従来遊歩道」について、歩きにくいやサイン等がない、草刈りができていないという評価の理由に対する対応が非常に重要になってくると思う。

意見等

委員長

- ・ サンプル数としては完全に十分ではないが、一定の結果が示された。満足度が非常に高い。観光資源としての天狗高原は県内でも第一級であることが再度確認された。希少種を含めた生物多様性の保全に関するアンケートなので、その点について最後に皆さんに議論してもらいたい。

委員

- ・ 妥当な結果ではないかと思う。
- ・ リピーターの方には叱られることがある。これは仕方がない。ただ一般のお客さんは満足している。散策に行く前にテラスに寄ってもらえるとマップ

で説明する。先に探勝路を歩いてからテラスに来た方は、テラスに寄ってから行けば良かったと言う。

委員長

- ・ 津野町は、観光振興する立場からみてどうか。

オブザーバー

- ・ 来客者がほぼ満足されているという結果と、その中に少し不満があるという点について、観光振興と自然保護のバランスを考えながら、もっと価値を高める取組をしていければと思う。

委員

- ・ アンケートの結果を見ると、そうなんだなという感じ。歩道整備する前を知っている人と知らない人では回答が違っている。初めて来た人はこういうものだと感じると思う。

委員長

- ・ 委員の説明にもあったように、5回以上のリピーターのご意見は貴重であるので、ご意見に対する解決案を考えていかなければならない。

委員

- ・ 生物多様性の観点で植物を見に来る人と、景色景観を楽しみに来る人では違いがあるが、この点については調べようがない。

委員

- ・ その点について追加で説明する。資料1-2の最後のページに、5つの課題を聞いている。設問「天狗高原のような半自然草原の希少性・重要性について理解している。」は、8割が「当てはまる」と回答している。次の「半自然草原の管理の継続的体制（火入れ、草刈り）が必要である。」に対しても、8割以上が「当てはまる」と回答。具体的にどのように進めるかは難しいと思うが、やはり重要だと思う。また、これ以上に、「希少植物の盗掘防止について厳重に取り締まるべきである。」は、9割が「当てはまる」と回答しており、事態が深刻であることを知っているのか、重要だと考えている。Eバイクの利用に関しては、「Eバイクを利用してみたい。」に「当てはまる」と回答したのが、6割程度と少し少ないため、Eバイクも含めた探勝路の活用が課題だと思う。「高齢者や身体障がい者などへの配慮をもっとすべきである。」も、6割が「当てはまる」と回答しており、配慮も併せてやっていく必要があると思う。特に自然資源に関しては、非常にやるべきだとの意見があることを報告する。

委員

- ・ 天狗高原について理解したうえで、満足度の回答をしたということか。

委員

- ・ 回答者の自己評価だが、理解したうえで回答している。

委員

- ・ アンケートの結果は正直。中立の7、8の約4割程度を取り込める方法があったのではないか。
- ・ 満足は満足だが、数回来た方は前と違う印象が強かったのかと思う。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8と9の差はあまりないのではないかと思う。 ・ すべての方を満足させることは当然できない。何度も足を運ぶような方は、昔は良かったとの考えをお持ちであり、変わってしまった現状に対してネガティブなことを考えるのはある程度はしょうがないと思うが、一方で変わったおかげで満足度も上がったと思える結果も見えるので、概ねポジティブに捉えていい結果だと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色々な考えがあるという実感。来訪の目的が様々な中で、今後どうしていくかを模索するのは、作為的になるので怖いと思う。 ・ 半自然草原の重要性等の質問は、これだけ理解されていることに驚いた。また、舗装された道ができて良くなったという割に「高齢者や身体障害者などへの配慮をもっとするべきである。」は、「よく当てはまる」ではなく、「やや当てはまる」や「どちらともいえない」が多いのが、少しズレがあると思った。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会立ち上げ当初も言ったが、この問題は非常に複雑で、観光と生物多様性の保全、景観の保全、身体障害者などへの配慮をどのようにバランスをとるか、非常にデリケートで難しい問題が山積していた。 ・ アンケート結果を見る限り、観光資源としては第1級で満足度が非常に高い。ただし、コアな来訪者については、不満を持っている方がいる。 ・ 舗装された道（探勝路やバリアフリー道）に直ちに大きな手を加えるという判断は、アンケート結果から結論は出ない。もう少しこのまま様子を見ないと分からない。 ・ 今後は、多様性の保全や、不満があった草原景観の保全・維持の問題に議論の力点を置き、さらに満足度を上げるため、どのような対策が求められるかが、議論の中心になると思う。探勝路を整備して、希少種を中心とする失われた生物多様性がある。面積的には狭いが、道の脇がホットスポットになっており希少種がたくさんあった場所がなくなった。そのミティゲーション（開発行為により生態系や自然環境に及ぼす影響を軽減するための保全・代替措置等）をどのように行うか、工事前よりもさらに良くするため、観光価値を上げるためにも生物多様性の豊かさをアップするためにも、考えなければいけない。議論の流れとして、工事をした探勝路をしばらくは静観し、様子を見守ることでよいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ よい。これだけ意識の高い方がいるので、私たちもその方向でやっていくべきと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの結果からも当然やっていかなければいけない問題だと思う。

委員	<ul style="list-style-type: none"> いつでも意見を聞く受皿的なものがあればよい。例えば、カルストテラスに投書箱のようなものを設置し、意見の収集をしてはどうか。新たにアンケートを実施するわけではないが、意見を言える場所があればよいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 投書箱的なものを設置し、いつでも意見を言えるようにすることは可能。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ツアーで来る方々は意識が高い。そういう方々の意見が大事。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 一朝一夕では解決できない難しい問題を含んでおり、当委員会でのコンセンサスはあったとしても一般の方はそうではない。単なる投書箱ではなく、天狗高原の維持管理の課題整理し、その問題点に対してどう思うか、問いかける形の投書箱があってもよいと思う。 当委員会の今後の課題として草原・植生管理について考えていることをカルストテラスに掲示し、一般の方に読んでもらったうえで、実際歩いてみてどう思うかを投書してもらうことでよいか。掲示する内容や投書箱設置などは、今回は議論する時間がないので、全員でメール等非公式な場で議論し、事務局に提出し了承を得る流れでよいか。 ⇒ 各委員、了承。

説明者	議事（１）資料２ 植生回復調査等について資料に基づき説明
-----	-------------------------------------

意見等	
------------	--

委員長	<ul style="list-style-type: none"> この件は、委員の要望が強かったのでご意見を伺いたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> リンドウが発芽していないとのことだったが、来年は発芽するかもしれない。調査はもう少し続けた方がよいと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 委員はどうか。特に移入種が少なくなった点について駆除の成果が出ている。駆除していて減っていく感じはあったか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> はい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 新しく入ってくるものは工事に関係した種ではないと判断してよいか。
説明者	<ul style="list-style-type: none"> むしろ、こういった環境を好む在来種、特に今後危惧されるのがヌルデやアカメガシワ等、荒れ地に最初入ってきて大きくなる樹木。30 cmから 50 cm くらいの個体がポツポツ確認された。これから大きくなると草原という環境に対して不釣り合いな部分と、また、根が探勝路の舗装の下に潜り込んで、木が風で揺すられて、探勝路そのものを壊す可能性があるため、探勝路の維持管理の視点で問題となる種を駆除する必要があると思う。

委員長	<ul style="list-style-type: none"> アカメガシワやヌルデは根萌芽を出すので、入ってくるとどんどん広がる。なるべく早く継続的な駆除をしないと、探勝路そのものを壊していくリスクがある。予算を確保して計画的に実施してほしい。1日で確認できるので、年に3～4回やればよい。少ない予算でできる。 在来のヨモギやセイタカアワダチソウは、地下茎を伸ばしてアスファルトを突き抜けるため、道を損傷し、多大な修復費用が発生する。これを防ぐため、探勝路脇の草刈りを継続的に行い、管理をする必要がある。 従来の遊歩道の草刈りがされていなかった。津野町から、「刈れば怒られる、刈らなくても怒られるため、いつ刈ったらよいか」と相談を受けた。草原生の植物にダメージを与えず、ある程度植生を抑えることのできる時期と頻度について委員間で相談して検討したい。芽が動き始めるのは4月頃からなので、あまり低い位置では刈れない。伸び始めるのは5月頃であれば4月中に一度刈る。後は秋。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 4月の中頃からスマレが出るかどうか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> スマレを避けて10 cmくらいの高さで刈ればよい。
説明者	<ul style="list-style-type: none"> 舗装されていない既存の歩道と新しい歩道の接合部分に高低差があるため削られている。新しい歩道が削られている場所と旧歩道が崩れているところがある。すでに対応をしている場所もあるが、未対応の所も散見される。一つの例だが、バリアフリー道に、旧歩道から新しい道に土砂が流れているところがある。車椅子の方などが通るときにガタガタして、砂に取られて動きづらい。また人がよく通る。このあたりに土留めなどあればよい。雨の後の管理も必要。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 崩れているところがあるのでその修復をした方がよい。
事務局	議事（1） 資料3 安全対策等について（案内板設置）説明 (資料3のとおり)
意見等	
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 北側の方向が正しくなっている。北を間違えると道迷いを起こす原因となる。少し斜めになっているが問題ない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 英語の説明間違いがないか確認した方がよい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 庁内の担当部署に確認をとる。
事務局	議事（1） 令和7年度の取組予定について

	<ul style="list-style-type: none"> 3点説明する。1点目は、「植生回復状況調査、モニタリング調査」の継続について、結果報告でも継続が望ましいということだったが、来年度も継続して実施できるよう、庁内で予算協議を行っている。無事、予算化ができれば、本年度と同様に実施したい。 2点目は、前回の第5回検討委員会にて委員長から「植生図の作成について」県で作成できないか話があった。実施できるよう、現在予算協議を行っている。予算化ができれば、年度当初のなるべく早い時期から実施したい。 3点目は、「維持管理草刈り（ボランティア等）を継続して行っていける仕組みづくり」について。現在、牧野植物園と津野町の協定により「天狗高原保全活動」の取組が行われているが、これを参考に、県と津野町で連携し、牧野植物園の支援もいただきながら、維持管理草刈りを継続して行う仕組みづくりを協議したいと考えている。
意見等	
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 植生管理について県と津野町で協議していただけることは非常に心強い。いい方向にまとまるようお願いする。
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> 今、牧野植物園を中心にいろんな方のボランティアで参加してもらって植生管理を続けているが、オブザーバーから意見はないか。
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度にサクラスミレの回復のため手を入れたところは回復が見られているので、エリアを広げることができれば一番よいが、今後の維持管理をどのような体制でやればよいか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 管理の草刈りは大変。私も毎回参加して実感している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 部分的な火入れができればよいが。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 部分的な火入れは専門家委員も常々おっしゃっている。草刈りをした範囲程度で、特に重要な部分だけ火入れすることは考えられないか。
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> 水がない。また体制を整えるのが難しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 規模が大きくても小さくても、必要な人員は同じで、それなりの設備が必要。専門的な知識のある団員がいなければ危険だが、人員を集めるのが難しい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 草原生の植物の保全では、3年間火入れをしないと遷移が進んで植物が消えてしまうことを心配している。ローテーションでやると、3年に1回の実施となる。さらに、火入れができない年が続くと、5年ほど火入れができない場所が出てくる。現状で、希少植物が多くある場所でどんどん遷移が進ん

<p>委員</p> <p>委員長</p>	<p>で希少植物が消失している現状がある。植生図を作成し、重点保全地域が決まれば管理方法の議論ができる。来年度にはだいたい決まる。草刈りは、相当な数のボランティアを募らないとできない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 草刈りした後の処理はどうか。 ・ 原則草は持ち出し。その場に放置しない。持ち出ししないと落ち葉がたまって発芽や芽吹きに悪影響を与える。また、ススキやササが旺盛に生育しないように植生の高さを低く保ちたい。労力があれば刈り取りするのが一番よい。火入れすると枯草が燃えてできた灰が栄養になり、ススキがよく育つ。
<p>オブザーバー</p>	<p>議題（１） 山焼きについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度の山焼きは3月23日（日）を予定日、次週の30日（日）を予備日として実施計画で現在調整している。場所は昨年予定した場所と同じドリーネ側。
<p>意見等</p>	
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドリーネ側の平らな部分の防火帯はもっと広げた方がよいのではないか。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつも3メートルくらい。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ それで大丈夫か。延焼しないか。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 延焼ないように団員の部隊がいる。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10メートルから20メートルと広範囲で刈っているところもある。3メートルで大丈夫なら問題ない。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回初めてになるが、舗装した探勝路を使うか。
<p>オブザーバー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使う。道の縁周りも刈るようにしている。
<p>委員長</p>	<p>■まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この会は令和5年度から約2年間、調査や観察など行ってきた。対策として、碎石部分の緑化や植生回復調査などを実施してきた、移入種の問題に対しては、モニタリング調査や駆除をして状況をみてきた。そのほか、石灰岩の除去や天狗高原石碑の設置位置修復、車止めの設置、路面標示設置などを行ってきた。 ・ 当初、問題が複雑なためすぐに解決しないと話をしたが、いつまでも議論をしているわけにはいかないので、アンケートを取る等、方向性が決まるように色々考えてきた。今回、アンケートの結果が出て、観光資源としては十

分機能を果たしており、今回設置したバリアフリー道や探勝路は観光的な価値を高める結果になっていて、満足度も高いため、今後すぐにアスファルトの道を撤去する等の議論はしなくてもよいと思う。

- 今後は、希少植物を含めた草原の失われた生物多様性を回復すること、また、アンケート結果では、草原環境の景観を含めた生物多様性の希少性を理解している人がたくさんいるため、植生を管理しないといけない。
- 盗掘を防止する方策も検討する必要がある。具体的なことは、今後この委員会で議論していく。
- このため、今後、年に最低1回は開会し、調査結果報告を聞いて、意見をいただき、次年度について考える委員会になると思う。
- 植生管理については、細かいことを議論する場が必要なので、ワーキンググループを別途設ける必要があると思っている。
- アンケートの結果は出たが、景観の変化や細かい修復、再度の見直しなど継続して残ることがあると思うので、長い目で見ていく必要がある。このため、委員会を来年度も続けてよいか。皆さんには続けて委員をお願いすることになる。植生管理や希少種の保全に関することに重点が移っていくこともあるので、新しい方の知見を得る可能性はある。

⇒ 各委員、了承。

- 具体的な植生管理保全作業に関するワーキングを植物の専門家等の委員で実施することについてはどうか。

⇒ 各委員、了承。

- 投書箱設置について、掲示するポスターを私と牧野のスタッフ3～4人、馬場委員を含めて作成したい。来年度前半くらいまでに作れるように考えたいと思う。お任せいただけるか。

⇒ 各委員、了承。